

（４）（３）の設問で、①もしくは②を選択した法人・事業所にお伺いします。

貴法人・事業所でもっとも力を入れている取組について、下記へご記入をお願いします。

法人名	（３）の回答	事業名	具体的な内容	開始時期	始まった経緯	効果	課題
さくらの園	②不明である		・日本社会事業大学で啓発人材育成を目的とした講演（今後ほかの大学でも実施予定） ・自治会主催のイベント等に参加 ・支えあい団体への登録 ・地域スポーツ推進活動への参加		事業の運営において利用者の共通の利益を地域で安心して暮らすことと捉えておりそのためには地域で役割を担うことが重要と考えている。この方針をたてたことからいろいろ始めている。	少しずつ地域から事業に対する理解や協力をいただいている。	
正育会	①している	地域子育て支援	近隣の公的施設（図書館）へ保育士が出向き絵本の読み聞かせ、手遊び等を地域の親子対象に行っている	H30.2～	以前（10年近く前）よりひばりヶ丘駅の書店の一角で出前保育として絵本の読み聞かせをしていたが、書店側の都合、こちらの人的負担もあり中止。しかし喜んでいただけてはいたので別の機会を模索している所だった。	まだ、認知度が低いため、参加者は、2～3組	広く地域の方々に周知する方法の検討。職員が2名出ていく時間内の人員確保が継続的にできるか、やらなくてはという思い
都心会	①している	保谷苑祭り	施設職員、地域ボランティアで売店実施（ほとんど保谷苑の厨房で準備）。老人会の唄や演奏、栄小学校合唱団、高齢者グループのバンド演奏等を和太鼓の演奏は初回から。阿波踊り等、金魚すくいゲーム。地域ボランティア団体の手作り作品販売等	平成10年～	保谷苑開設時の平成9年に地域の方から「地域のお祭りがなく子供から高齢者まで参加できるお祭りを是非作ってほしい」とのニーズを受けて、翌年から開催している。	地域のボランティア、老人会、ふれまちと協同して作り上げる。地元の小学生、中学生、高校生もボランティア参加でコーラスや演奏等地域の発表の場となっている。地域の活性化となっている。	ボランティアの高齢化、特養家族会の協力減少
悠遊	①している	①西東京市SOSネットワーク認知症模擬訓練in悠遊②地域防災訓練in悠遊	①認知症の方が行方不明になった時を想定し、地域の市民とグループになって不明者の発見に努める。認知症の理解、声のかけ方などを事前に学習します。発見することが目的ではなく、そのような方々が日常的に地域で生活していることを理解し、多くの市民が参加する中で、地域社会の関係性を紡いでいくこととしています。毎回地域の学校の体育館をお借りし、100名近い参加者があります。 ②地域の方々と防災、防火の啓蒙活動を実施。3月の火災予防週間時に西東京消防署のご協力をいただき施設火災の防災訓練を実施します。その後、市民参加の消火器訓練、煙体験、ADL訓練の体験、西東京レスキューバードによる災害時の役立つ企画、危機管理室より非常食の提供による試食会などを実施しています。昨年ははしご車の試乗や消防車と写真を撮ろうなどの企画があり、地域の子供たちの参加がありました。	①西東京市SOSネットワーク認知症模擬訓練は2011年3月に開始。（毎月9月に行う） ②地域防災訓練は(前身はグループホーム企画のADL訓練から)2016年3月に第1回目	①2010年に福岡の大牟田市が取り組んでいる事例に参加した。地域市民が協力しながら認知症の方が安心して過ごせる「まち」の実現を社会資源とともにネットワーク構築し実現してきた経緯を知る。当法人においても、私たちが目指す地域福祉社会の実現を身近な活動からできるのではないかとスタートさせた。 ②災害はだれでもいつかは遭遇すること。施設内の訓練ではなく地域の方々が参加し、災害の理解や体験を通じて地域の助け合いの意識を高めたい。	①今年で10回目を迎えますが、西東京のほかの地域でも実践が行われている。実践を通じて認知症の方が地域に存在することを認識。終了後、グループごとに反省会を行い、共通認識を高めていくことができる。 ②消防署の参加により、防災意識が高まっている。(職員は緊張感を持って参加)市民参加も一昨年も広がってきた。	①参加者が固定化してきている。地域資源との連携が課題(スーパー、コンビニ、郵便局等) ②年数を重ねていく中で、先と同じような課題が出てくると思われる。★社福としての連携も課題
たつの子の会	①している	母子通園受け入れ事業	特別な配慮、支援が必要な子どもとその保護者が、保育園を利用して子育て支援、発達支援を受ける事業。具体例＝保育士によるマッサージを通した発達支援	平成29年度より開始※類似のニーズに対しては平成20年頃よりよりスタート	在園児に配慮・支援が必要な子どもがおり、その子との関わりを通じて保護者同士のネットワークから相談者が訪れるようになった。	保育園が地域の（在園に限らない）子育て支援拠点として機能し、発達支援を必要とする地域ニーズに応えることができている。	継続的に支援していくための人材の育成
黄河会	①している		・西東京市社会福祉法人連絡会での事業…災害ボランティアセンター設置訓練、フードドライブetc ・納涼会を企画して近隣住民の招待 ・職場体験の受け入れ				
東京聖新会	①している	東京聖新会地域支援プロジェクト	・マシン、理学療法無料開放 ・市民卓球クラブ支援 ・各種出前サービス・地域行事アシスト支援 ・ラジオ局経営支援	ラジオ番組2012～ 出前講座：2005～ 餅つき：2004～ 災害避難訓練：2015～ 市民卓球クラブ：2017～ マシン開放：2017～	もちつき、「ふれあい会」で納会と開放していたが人手不足のため当法人が関わる。その後、育成会、PTAなど巻き込む。大規模被災時の地域の通信手段確保としてFM西東京を組織的に支援し、かつ地域情報発信（社会的な）を継続してきている。	地域市民の活躍情報福祉の仕組み及び地域の福祉法人のスタッフを招き（専門家も招き）番組作りを行う。当法人のスタッフの学びの場にもなった。大規模な地域行事となり顔をつなく、出会い、絆づくりの場となる	・ラジオ番組は資金を投入せねばならず当法人の健全な経営が必要 ・人材不足の中で継続させるための「しかけ」が必要
睦月会	①している	くろーばー祭り、ほうや福作まつり、さざんか祭り等	・お祭りへの地域住民のボランティアさんの参加 ・事業所の活動紹介 ・利用者による参加型企画等		地域に開かれた法人を目指すという法人理念のもと地域共生社会の実現に向けて「地域交流事業」として行った。障害のある方や障害のある児童が当たり前に地域で生きていくための障害の理解の推進と啓蒙啓発。	ボランティアさんや地域住民の方の障害理解が進んだ。また、参加していただくことで協労の場の創出し住民相互のつながりが生まれている。	障害のある方や児童が地域の一人として生きていくための基盤整備。バリアフリー（ハード、ソフト）
至誠学舎東京	①している	緑寿園	高齢者虐待事例検討会　地域包括支援センター職員、地域の介護支援専門員が事例提供者となり、大学教授、検討会メンバーから事例対応の助言、検証を行い、地域における相談職員能力向上を図る。	平成28年度から自主事業（受託事業は平成17年度から）	西東京市、武蔵野市、小金井市と至誠学舎東京の共同研究事業から始まる。	地域の専門職の能力向上(三市の地域包括支援センター、地域の介護支援専門員が対応困難事例を報告することで、高齢者虐待への対応能力が向上)	行政からの受託事業として始まり、行政支援の上で成り立っていた事業なので、自主紙業として効果を理解いただく内容にしていく必要がある。
松葉の園	②不明である	自立援助ホームまつぼっくり	引きこもりだった方々の相談支援・子育てに悩んでいる人々を適切な関係機関につなぐこと。児童養護出身者（ホームにいなかった人）の支援（すべて市外）	2013年4月1日			

法人名	(3) の回答	事業名	具体的な内容	開始時期	始まった経緯	効果	課題
クリスト・ロア会	①している	山中湖林間寮活用事業	山梨県山中湖村にある当法人所有ログハウスを利用いただき、支援を必要とする方々に自然体験をしてもらうプログラムを提供していく。	平成29年8月から	法人の所有している林間寮を有効的に市民へ活用してもらえるよう東京都法人係と協議を続け、プログラム等も提供することにより、地域公益事業として認められることになる。	支援を必要としている方々や支援をしている方々にリフレッシュを!!	移動手段に課題が残る
聡香会	①している	育児相談・妊娠前後の体験学習、保育体験	実際に各当のクラスに親子または、妊娠前後の夫婦等で半日過ごしてもらいながら、それぞれの年代の発達や遊び方などを見てもらう。その後時間をもってその後時間をもって様々な相談に応じています。	5/14より開始です	見学者よりの希望があり保育体験を開始。その後、妊産婦などの受け入れを行う。	実際に見て体験してからの質問や相談になるので困っていることが具体的になる。	地域の保護者の希望時間と園の希望時間にズレがある。園の子たちの生活時間を伝えて、なるべく指定の時間からの開始でお願いしている。
田無の会	①している	1.地域サロン カフェ・たんぼぼ 2.たんぼぼ感謝祭	1.地域サロン カフェ・たんぼぼ オープン日：毎月第1、第3火曜日 オープン時間：午後1時半～午後4時 場所：1階談話室 運営：地域ボランティア 参加費：100円(飲み物お代わり自由+お菓子) 特徴：手作りパン販売 利用者による接客対応 参加者：地域住民、独居高齢者、手をつなぐ親の会、利用者・家族、行政関係者、地域包括支援センター、民生委員、小中学校関係者、障害福祉関係者など 2.たんぼぼ感謝祭 地域交流を主眼とした「感謝祭」 参加者：利用者・家族、行政関係者、近接小学校関係者(一部テント借用)、隣接学童クラブ関係者、市内外の社会福祉法人、NPO法人、各ボランティア、東社協等福祉関係者 内容：家族会によるバザー、社協を含む各法人ブース(PR,自主製品販売)、ゲームコーナー、たんぼぼボランティア活動コーナー(カフェ、読み聞かせ、武蔵野大学管弦楽団)、産直野菜、果物販売(農協・農家協力)、屋台(焼きそば・カレー・焼き鳥・フランク・アイス・ジュース)、プロカ士による実演販売・少年相撲等	1.平成28年6月 2.平成28年9月	より地域に開かれ、より地域に根差した施設への取り組みを必要とした。	施設及び障害者の理解促進、外部とのネットワークの構築、ボランティアの増 関係機関との連携強化、職員の意識改革等	1.スペースの問題・パンのグレードアップ 2.職員の負担軽減、外部機関との調整
西東京市 社会福祉協議会	①している	災害ボランティアセンター設置・運営訓練	西東京市総合防災訓練への参加。発災時におけるボランティア活動の役割の理解を深めるための学習機会として、防災防犯活動団体、地域活動者や地域住民等の参加を促し、災害ボランティアセンター運営時の受付班、コーディーネート班、オリエンテーション班、資材班等に分かれ、対応の仮想訓練を実施。また、災害時の使用備品の取扱等を体験してもらう。	平成27年9月から年1回実施	平成26年2月に締結した、西東京市との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」に基づき、大規模災害が発生した際に、災害ボランティアセンターの設置要請があることを想定し、本会で作成したマニュアルを活用しながら、市総合防災訓練を通じて、災害ボランティア活動の支援に関わる実践訓練の場としてきている。	発災時の意識啓発、災害時に使われる資機材の取り扱いの習得、発災時のボランティアセンター運営やボランティア活動者の人材育成・確保につながってきている。誰もが不安に感じていることであり、参加者も年々増加している。	関心はあるが、参加に踏み切れない団体や住民への周知・広報が課題である。